

<事業者の概要>

1. 所在地：高知県高知市長浜566-1
2. 代表者：代表取締役 竹内 孝久
3. 主な品目：日本酒、リキュール
4. 主な輸出先国・地域：米国、韓国、中国 等
5. 事業概要：1872年酒造業を創業。1969年「酔鯨酒造」に改組し、銘柄「酔鯨」の製造・販売を開始。現在は、「特別純米酒」や「純米吟醸 吟麗」を中心とした清酒、リキュールの製造・販売を行っている。



主な輸出商品



ハワイでのイベントの様子

【輸出の取組内容】

- 日常酒は「鯨のイラスト」、高級酒は鯨の尾びれをデフォルメした「テールマーク」に統一し、海外の人が一目見て直ぐ覚えられる様なキャッチーなデザインへの変更。
- 新型コロナウイルス感染拡大前は、お客様とのエンゲージコミュニティ（絆をつくり上げること）をテーマにした体験型のイベント「SUIGEI E.S.L Event (E.S.L会)」を開催し、国内のみならずニューヨーク、パリ、ベルリンなど世界の都市でも開催。
- 米国、中国向けに現地の嗜好に合わせた輸出専用商品の開発、販売。

【取組経緯】

- 消費量が減少傾向にある「國酒」の一つである日本酒を世界に広めていきたいという想いで海外市場の拡大に注力。
- 貿易会社主催の現地展示会参加や現地でのプロモーション活動を中心に輸出量を拡大。
- 北米向け輸出は2023年に円安の影響で拡大、2024年にはトランプ関税の影響もあり縮小した。

【課題と対応方法】

- 輸出先から求められる衛生管理への対応
→2018年に新設した土佐蔵ではISO22000を取得し、衛生管理の向上を図るとともに、主力商品の生産能力の拡大により安定的な供給量を確保する。
- 各国の市場ニーズを捉えた商品開発
→貿易会社との連携を密に取り、スピーディーに対応することで的確にニーズを把握し商品化につなげていく。
- カントリーリスクへの対応
→各国の政治社会の情勢、為替相場の変動が輸出額に与える影響が大きくなっている。リスク分散のための新規開拓にも注力する。

【実績】

輸出量(kℓ)		輸出国割合(%)	
2022年	150	米国	63
2023年	211	韓国	13
2024年	175	中国	6
		その他	18

【今後の事業展開】

- ✓ 既存輸出国への輸出量増加と併せて、中東や南米などの新規取引先の開拓を図る。
- ✓ 「Enjoy SAKE Life」をテーマに幅広い活動を行いながら、より多くの国の多くの世代の人たちに日本酒の魅力を知ってもらい、世界一の“食中酒”を目指していく。